

第5回半田市立半田病院あり方検討委員会議事要旨録

開催日時	平成28年4月26日(火) 午後3時00分から午後3時55分
開催場所	半田市立半田病院 第4会議室
会議次第	○会長あいさつ ≪協議事項≫ (1) 半田市立半田病院新病院構想(案)について (2) 半田市立半田病院あり方検討委員会答申(案)について ≪その他≫
出席委員	石黒直樹、花井俊典、北別府 誠、田村良子、本間義正、子安春樹、藤本哲史、石田義博
欠席委員	中山 隆、篠田陽史
事務局 その他出席職員等	副院長 久保田 仁、副院長 石田時一、副院長 渡邊和彦、副院長 大塚 泰郎、看護局長 白井麻希、事務局長 三浦幹広、管理課長 大嶽浩幸、中央臨床検査科技師長 杉浦幸一、管理課主幹 都築 靖、管理課副主幹 鳥居高宏、管理課主査 水野涼子、アイテック(株)角永雄一、寺町健也
傍聴者	5人
次 第	議 事 概 要
○会長あいさつ	<p>(三浦事務局長) 第5回半田市立半田病院あり方検討委員会を開催させていただきます。 なお、委員のうち、篠田委員、中山委員につきましては、他の所用のため、欠席との連絡をいただいておりますのでよろしくお願いいたします。 本日の予定は、お手元にお配りしてあります会議次第に従い進めさせていただきます。 それでは、まず、本委員会の会長であります、名古屋大学医学部附属病院石黒病院長からごあいさつをいただきたいと存じます。</p> <p>お忙しいなかお集まりいただきありがとうございます。この委員会も5回目となり、いよいよ大詰めとなった感があります。本日も議題が2つあります。ぜひとも忌憚のないご意見をいただき、良い新病院の構想を練っていきたいと思いますのでよろしくお願い致します。</p> <p>(三浦事務局長) 本日の委員会の趣旨といたしましては、半田市立半田病院あり方検討委員会の検討結果報告書となる「半田市立半田病院新病院構想」の最終的な内容確認、及び会議の終了後、概ね16時から市長への答申を予定しておりますが、その答申書の内容の確認をいただくことといたしております。 協議事項として(1)半田市立半田病院新病院構想(案)について、(2)半田市立半田病院あり方検討委員会答申(案)についての順に進めさせていただきますので、よろしくお願い致します。 それでは、議事にうつらせていただきます。議長につきましては、当委員会設置要綱第6条第1項の規定に基づき、会長をお願いいたします。</p>

○協議事項
(1) 半田市立半田
病院新病院構想
(案) について

(石黒会長)

それでは、次第に従い、議事を進行させていただきます。

1. 協議事項「半田市立半田病院新病院構想(案)について」事務局から説明願います。

(三浦事務局長)

新病院構想につきましては、市長を始め病院幹部へのヒアリング、内部・外部の環境調査、院内検討組織での協議、また、8月から9月にかけて実施をいたしました市民アンケート結果を踏まえ、10月に開催いたしました第2回の委員会におきまして、その素案を提示させていただきご協議をいただいたところです。その後非公開で開催いたしました、第3回、第4回の委員会におきまして、候補地、事業計画について慎重にご協議をいただき、その検討結果を整理し記載したのち、本日の会議に先立ち、事前に委員の皆様にご確認をいただき、修正意見を反映したうえで、今回提示をさせていただきます。

構想書の内容の詳細につきましては、医業経営コンサルタント法人であり、多くの病院建設に携わってきたアイテック株式会社が、客観的視点から分析や候補地案の選定作業を進めてまいりましたので、アイテック担当者から説明をさせていただきますのでよろしくお願いいたします。

(アイテック)

新病院構想案についてご説明させていただきます。新病院構想案の本編は大きく7つの構成となっています。また、当院を取り巻く医療行政の動向や市民アンケートの詳細な結果等をまとめて資料編として整理しておりますが、本日は新病院構想の本編の内容についてご説明いたします。まず、最初に、新病院を整備する必要性について、11ページをご覧ください。当院の本館は築後33年を経過しており、施設の老朽化による不具合や医療の進歩に施設が対応できない状況が多く出てきています。空調機等の設備を中長期の修繕計画によって更新を進めていますが、配管については当院の設計上の理由から、更新がほとんどできていません。また、当院の施設を今後も長期にわたって利用する場合には、平成34年頃には大規模な保守・修繕が必要となり、現状の見込みとして140億円程度が必要になると予想されています。また、13ページでは、病院のスペースが不足している状況について整理しています。5年前と比較して職員が100人以上増加しており、また、医療の進歩に伴う医療機器の増加等により、建設当初では予想できなかったスペースの不足が発生しています。こうした当院の現状から、今後も半田市や知多半島における主要な医療施設として、地域の皆様へ医療を提供し続けていくためには、新しい病院を早期に整備することが必要であると考えられます。

続いて新病院の役割についてご説明いたします。新病院の機能を考えるうえでは、当院の現状での機能を確認する必要がありますが、16ページ以降で当院の現状での医療機能を整理しています。

次に、33、34ページをご覧ください。ここでは、市民アンケートの結果の概要を整理しています。アンケートの結果としては、回答者の9割近くから、当院は今後も「知多半島医療圏における中心的な役割を果たす医療機関」であること、9割以上から、当院は今後も「急性心筋梗塞・脳卒中・がん等の重要な疾病に対して高度な医療を提供する医療機関」であることが望まれています。その他、「24時間対応の救急医療体制」や循環器やがん医療といった高度

急性期医療の提供を希望する回答が多く見られました。

また、「災害時に対応した医療機関」であることを希望する回答も多く見られました。新病院の設備としては、「各部門の配置や待ち時間などわかりやすい案内表示」、「大規模災害に備えた施設・設備」を希望する回答が多く見られました。新病院の立地条件については、「災害時にも機能できる場所」、それに次いで「公共交通機関のアクセスがよい場所」を望む回答が多く見られました。

次に新病院の病床規模についてご説明いたします。36ページ(2)をご覧ください。病床規模の検討にあたっては、新病院での1日あたりの平均入院患者数の推計値が基本となります。そのため、まずは当院のデータを用いて、1日当たりの平均入院患者数を算出しました。算出にあたっては、地域医療構想策定ガイドラインに定められた高度急性期・急性期・回復期・慢性期の4区分ごとに患者数の算出を行い、周辺地域の人口変化の影響により、将来的にどのように変化するのかを考慮して、患者数を推計しました。このように推計した患者数を受け入れるために必要な病床数を求めることで、新病院の病床規模を算出しています。また、新病院に必要な病床数を求める際には、平均在院日数が短縮している傾向も考慮しています。病床規模の検討結果としては、400床程度として想定しています。ただし、今後、新病院での目標手術件数やICU等の高機能病床の規模、緩和ケア病棟の設置等の検討を進めるうえで調整を行っていきます。

続いて、37、38ページをご覧ください。現病院の役割や市民アンケートの結果等を参考として、新病院の役割について検討を行ってまいりました。ここでは、その検討結果を整理しています。

まずは救急や災害時などの政策的医療についてです。救急機能については、現状で当院が有している救命救急センター病床以外に、ICUやCCUなどの高機能病床の整備を想定します。災害医療については、病院の敷地外に設置されているヘリポートを病院敷地内に設置、また、新病院施設の免震化やライフラインの二重化を図り、災害に強い病院を目指します。周産期・小児医療については、地域周産期母子医療センターおよび三次救急医療機関として、継続的に地域の周産期・小児医療を提供します。次に、地域医療への取り組みについてです。政策的医療への対応や重要疾病への対応を効率的に行うことができる体制を構築します。また、地域医療機関との役割分担や再編ネットワーク化を進めるうえで、新たな連携強化に取り組んでいきます。続いて、重要疾病への対応についてです。がん診療連携拠点病院として、予防から手術、放射線療法および化学療法を効果的に組み合わせ、集学的がん医療の実践を強化します。

さらに、こうしたがん医療を支える放射線診断医、腫瘍内科医、専門・認定看護師、薬剤師等の人材の確保・育成に努めます。脳卒中・急性心筋梗塞については、循環器センターや脳卒中センターの設置等により、最新かつ最良の診断と治療、内科的治療と外科的治療、リハビリテーションをより効率的に提供するための体制を検討します。

続いて、新病院の建設候補地についてご説明いたします。39ページから51ページに建設候補地の検討過程と検討結果を整理しています。前提条件については、新病院の建設候補地を抽出するにあたっては、半田市内全域の土地を対象として確認を行いました。市の所有地であるかどうかに関わらず、病院建設の可能性を少しでも見込むことのできる土地は検討の対象としています。その結果として、13か所の調査地を抽出し、病院建設に適した土地かどうかの検討を行いました。敷地条件については、13か所の調査地

に対して、5つの敷地条件をできる限り満たすことができる土地を、病院建設の候補地として絞り込みを行いました。

1つ目は、原則として35,000㎡～47,000㎡を確保できること。

2つ目は、平坦な土地であり、造成が行いやすいこと。

3つ目は、幹線道路に接続していること。

4つ目は、ヘリコプターの離着陸に影響がないこと。

5つ目は、現状で農地以外の用途に利用されていないこと。

5つの敷地条件を当てはめて検討をした結果として、市街化区域において4か所、市街化調整区域において3か所に候補地を絞り込みました。続いて42ページをご覧ください。7か所に絞り込んだ候補地を評価するにあたり、9つの共通評価項目を設定しました。この共通評価項目による評価は、評価をする人によって重要性の判断が異なる可能性が高く、客観的な点数配分が難しくなります。そこで、48ページになりますが、共通評価項目以外に候補地ごとの新病院開院までの想定スケジュールや災害時の対応可能性などについて整理を行い、多角的な視点から建設候補地の選定を行いました。それでは、43、44ページをご覧ください。

ここでは、市街化区域における4つの候補地を整理しています。

1つ目は、現病院の正面にある、半田市の職員駐車場。

2つ目の候補地は、青山公園と青山記念武道館の敷地。

3つ目の候補地は、半田市営半田球場を含む、雁宿公園の敷地。

4つ目の候補地は、JR半田駅東側の、半田駅付近連続立体交差事業によって半田市による取得が予定されている用地、その周辺敷地も含めて候補地として想定しています。また、45ページでは、市街化区域における各候補地の、新病院建設に関連する想定費用を整理しています。

次に、46ページをご覧ください。ここでは、市街化調整区域における3つの候補地を整理しています。

1つ目は、半田IC東側の農地。

2つ目の候補地は、半田市医師会の健康管理センターの敷地。その周辺敷地も含めて候補地として想定しています。

3つ目の候補地は、半田市滑楚町のゴルフ練習場。

また、47ページでは、市街化調整区域における各候補地の新病院建設に関連する想定費用を整理しています。

ここで、資料の修正をお願いします。候補地の2つ目青山公園と青山記念武道館の敷地、5つ目半田IC東側の農地、6つ目の半田市医師会の健康管理センターの敷地における共通評価項目の④交通アクセスのバス路線が整備されているという項目に×が記載されていますが、この3か所の候補地につきましては、半田・常滑間のバス路線が整備されておりますので、○に訂正させていただきます。

次に48ページをご覧ください。先程ご紹介した7つの候補地について、新病院建設候補地としての評価を行い、その検討結果を整理しています。候補地の検討にあたっては、(イ)にあるように、大きく分けて「実現可能性」と「医療提供」の2点について検討を行いました。特に「(1) 実現可能性 ①建設スケジュール」と「(2) 医療提供 ③災害時」が争点となったため、48ページ以降では、特にこの2点に関する検討状況を整理しています。

続いて、50ページをご覧ください。(4)では、建設候補地についての検討結果を整理しています。まずは、ア 実現可能性の観点からの整理です。建設候補地の選定にあたっては、現病院の大規模な設備更新が必要となる前の開院を実現できることを、評価の最優先事項とする。候補地が市街化調整区域内にある場合や都市計画公

園を含む場合には、都市計画変更手続きに必要な期間が前提として必要となる。また、現状用途の代替施設整備に係る費用等も必要となる。そのため、建設候補地からは、市街化調整区域内と都市計画公園を含む候補地を除外した。建設後の病院経営を考慮すれば、新病院建設に係る費用は極力絞り込む必要がある。建設スケジュールの効率化や建設関連費用の抑制を実現するのに、最も適した候補地は、現半田市職員駐車場といえる。

次に、イ 医療提供の観点からの整理です。新病院においては、超高齢社会に対応して、現病院よりもバスなどの公共交通機関を利用したアクセス利便性の向上を図る必要がある。市民の立場としては、病院へのアクセス利便性が最も重要である。そのため、半田市街の中心から距離のある候補地は、建設候補地として評価が劣る。災害時の医療提供という観点からは、どの候補地に建設する場合でも、建物やその敷地自体は耐震化や液状化対策を施すことにより、医療提供が滞ることはない。ただし、現半田市職員駐車場を建設候補地とする場合には、過去の浸水実績等から周辺道路の浸水や、地震による液状化現象発生の可能性が見込まれている。この点については、中部電力北側道路や阿久比川堤防道路が緊急輸送道路として機能できると想定されるため、迂回路ではあるものの周辺道路の浸水時等でも市内各所からのアクセスは可能である。以上のことから、どの候補地であっても、災害時の継続的な医療提供が可能であるといえる。

ウ 建設候補地についての結論については、建設スケジュールや建設関連費用、および半田市民への医療提供等の評価により、全会一致で新病院建設候補地は「現半田市職員駐車場敷地」とする。なお、新病院を建設する場合には、市民の公共交通機関での利便性向上や、周辺道路の液状化といった課題が残されている。そのため、以下の点を半田市と協力して解決していくこととする。

周辺道路の液状化対策を検討する。

周辺道路が浸水した場合の迂回路の検討を行う。

病院へのアクセス向上のために、病院へのバス路線の充実を検討する。

最後に、新病院の事業計画についてご説明いたします。56ページの結論のように、シミュレーションの結果としては、事業費が約240億円とするのであれば、新病院事業の実現可能性については問題のないレベルの収支といえます。

以上が新病院基本構想の本編のポイントとなります。なお、ご説明した内容に加え、先日発生しました熊本での地震の発生を受けまして、これまでのあり方検討委員会でも活断層についての話がありましたが、お手元の構想案では、この点については記載されていません。そこで、本日「半田市に關係する活断層」という資料を追加配布させていただいていますが、この内容を資料編に追加することをご提案させていただきます。

(石黒会長)

項目ごとにご説明をしていただきましたが、委員の皆様からご意見、ご質問があればお願いします。

それでは、項目の順番に沿って確認させていただきます。

まず、内部環境分析と外部環境動向から始まります。病院の今までの経緯とこれからどうなっていくべきかが記載されています。病院機能の強化の面から、今までの時代は、どこの病院でも建物の継ぎ足しを繰り返し規模が大きくなりすぎてきていますが、これからはそうはいかないと思います。成熟社会となるこれから先にはどう

いうものがふさわしいのか、これまでは借金もそれほど怖くはありませんでしたが、今後は職員の数も現状維持させるのか、ダウンサイズさせるのか、医療機関においても必要な視点となります。そして長持ちする建物をお願いします。よろしいでしょうか。

次に設備面ですが、老朽化が進んでいるとのことですので。ご意見等がありますか。

(花井委員)

一塊で建築をすると部分的な修理が難しくなると思います。建物の傷みがひどくなるのが想定される個所は、ユニット単位で修理できるような発想でお願いしたいと思います。

(アイテック)

システムを二重にしたり、ユニット単位にしたりしてメンテナンスを行いやすいようにしているところもあります。

(石黒会長)

配管を外から見えるようにした場合、外観はよくないですが、メンテナンスは簡単であり、修繕費用も安くなります。建物についても今後工夫していただきたいと思います。

続きまして、医療面での現状分析、経営面での現状分析、半田市と知多半島医療圏での現状と課題が16ページ以降にまとめてあります。これにつきまして、何かご意見等ありますか。

(子安委員)

医療計画というお話がありましたが、医療計画での基準病床の見直しを行っています。厚生労働省が10年後の地域医療構想に向けて、必要病床数を各病院の御意見を伺って作成することとなっています。これについては、昨年度末で終了する予定でしたが、今年の後半にずれ込む予定です。基準病床数、必要病床数についても大きな問題点はないということで進んでいます。時代背景を基に400床を目途にダウンサイジングするということですが、特に問題はないと思っています。災害対策については、3年前から皆様に保健所にお集まりいただき会議を開催させていただいていますが、浸水対策や液状化対策については、対応していただけるということで何とかクリアできるとしています。

(石黒会長)

県の行政としてのご意見ありがとうございました。現在いわゆる2025年問題に向けて病床数を見直すという動きがありますが、愛知県では、多くの過剰病床が生じない、この辺りでは適正数があるであろうと言われており、この医療計画においては大きな問題はないと思われます。

(石田委員)

当院は、今後も急性期病院として病床数を減らして運営する予定です。この地域では、回復期病床数が足りないという見込みとなっています。この点で可能であるならば、当院が減らした100床を回復期病床として活用していただけるような方策があればと思っています。

(石黒会長)

県としてのご意見はありますか。

(子安委員)

いろいろな問題が生じますのでここでの発言は控えさせていただきますが、ご意見としていただいております。

(石黒会長)

急性期病院では、在院日数を短くするという大きな流れがあります。地域の方々と一緒になって回復期リハビリテーション、中間的な病床を考えていただければと思います。この点についていかがですか。

(花井委員)

半田市医師会内では、回復期の患者さんを診る病院はありますが、慢性期の患者さんを診る病院はありません。近隣の病院と密接な連携をとることが可能であるならば大丈夫ですが、受け入れ先がない状況ならば、我々としても真剣に考えなければならぬと思っています。また、経営母体が同じの場合、病院間の紹介時の診療報酬が算定できないという別の課題もあり、こちらも並行して何か方策を考えていかなければと思っています。

(石黒会長)

重要なお意見をありがとうございました。急性期病院は、在院日数を短縮するという流れのもと、看護基準の見直しがされています。7対1看護体制を守るためには早く退院いただかなければなりません。高年齢等の理由により受け入れ先がないという問題をご指摘いただきましたが、この問題はどの地域においても非常に重要な問題です。しかしながら、急性期病院に社会的入院の患者が増えてしまうと、急性期病院の経営が行き詰ってしまうという別の問題も起きてしまいます。この答申書で終わりではなく、ぜひとも地域の皆様に医療体制についてさらにご議論されることを祈念しています。

それでは、次の建設候補地の抽出方法等について、皆様のご意見をいただきまして候補地を決めさせていただきました。これについて、何かご意見はありませんか。

(北別府委員)

建設候補地については、前回の会議で満場一致で決定されましたが、この会議で一つの候補地に絞り込んで答申する方法以外にも、例えばいくつかの案を答申してもよかったかという思いもあります。

(石黒会長)

将来に対する責任を取る委員会であるという観点もありますが、ここで決定しなければ、誰が決定するかということにもなりますので、ご了承いただければと思います。

(田村委員)

結論が出ましたけれども、51ページに記載されている3つの課題については、必ず解決していただきたいと思っています。

(藤本委員)

本来ならば、答申を受けた市長からお答えすべきですが、現時点での状況をお話しさせていただきます。

まず、1点目の周辺道路の液状化対策についてですが、市役所前交差点からさくら小学校正門近は市道となっており、液状化に対して

はそれほど強力な舗装厚が確保されていないため、対策が必要であると思っています。大雑把な試算ですが、この区間の液状化対策を全面的に実施すると最大3億円の費用がかかる見込みとなっています。ただし、この試算はあくまでも現時点のものであり、工法や技術の進捗等によっては変わる可能性もあります。半田病院の存立基盤にも関わるものであるため実施しなければならないと思っています。

2点目の主要道路が浸水した場合の迂回ですが、この報告書にも記載されていますが、阿久比川堤防に隣接する道路に輸送道路として直接接続することになります。既に平成27年度末から、阿久比川堤防の補強工事が愛知県により実施されています。最終的には約1.2kmほどの距離を平成35年度までの期間をかけて、堤防が現在想定されている地震に対しても十分耐えられるだけの補強工事が実施されますので、万が一緊急輸送道路を作っても、その道路が決壊する、使用不可となることはなく、造成していく道路をしっかりと造れば確保できると思っています。

3点目のバス路線の充実ですが、今後のバス路線の需要を考えた場合、どこに半田病院を建設しても、最も需要の高い施設になると思います。半田病院を起点としてバス路線をどうしていくかという点も課題になると思います。構造上においても、新病院の玄関に横付けできるような設計が必要であり、半田市内のバス路線も含めた公共輸送全体を改めて見直しています。半田病院は市民が最も利用する可能性が高い施設として、バス路線を考えていく必要があります。

(石黒会長)

市民の目線で必ず実行していただけるようお願いいたします。
他によろしいでしょうか。

(花井委員)

阿久比川の南側にも道路はありますか。阿久比川の管轄はどこになりますか。

(藤本委員)

県道と市道が重なっています。また、阿久比川は二級河川であるため愛知県の管轄となり、愛知県の許可が必要となります。

(花井委員)

愛知県にもきちんと説明をしていただくようお願いいたします。

(藤本委員)

幅員も最大限確保しなければならないため、場合によっては、隣地の方には少しご理解をいただく可能性もありますが、ここで答申をいただき、市長が議会に報告して方針が決まれば、早急に知多土木事務所等の関係機関にもご説明させていただきます。

(石黒会長)

行政のみならず、市民の皆様からのご意見も重要ですので、医師会も含めてご尽力いただければと思います。建設候補地に関して、ご了解いただいたということによろしいでしょうか。それでは、

52ページの新病院の事業計画について、何かご意見等はありますか。

<p>(2) 半田市立半田病院あり方検討委員会答申(案)について</p>	<p>(石田委員)</p> <p>先ほど新病院の建設等にかかる費用として240億円というご説明がありました。今回の地震で被災している熊本市民病院ですが、事業費が133億円から209億円に増え、病院運営の継続が難しいとの判断のため、新病院の建設着工を延期したところ被災してしまいました。当院の新病院建設においても、相当厳しい金額であることを運営していく職員一同がしっかりと心に刻んでおくべきであります。</p>
	<p>(石黒会長)</p> <p>現在の病院は耐震基準を満たしていますか。</p>
	<p>(三浦事務局長)</p> <p>昭和56年の新耐震基準は満たしています。また、病棟については耐震補強しており、計算上は安全となっています。ただし、場所によっては、四方が壁等で囲まれている場所など、構造上耐震補強ができていない場所もあります。</p>
	<p>(子安委員)</p> <p>地域によって役割は違いますが、知多半島において、半田病院が最重要中核病院であることには間違いありません。</p>
	<p>(石黒会長)</p> <p>知多半島において、半田病院が最重要中核病院であることには間違いなく、構造上耐震補強ができていない場所もあるということなので、是非、早く建て替えをお願いします。また、BCPプラン、事業継続計画を策定してください。</p>
	<p>(本間委員)</p> <p>事業計画の中で、医療機器の費用が52億円と見込まれています。病院の建物も重要ですが、医療機器も重要であると思っています。この52億円は妥当な数値ですか。</p>
	<p>(アイテック)</p> <p>現病院で保有されている医療機器を全て把握していませんが、我々が把握している1床あたりの想定単価を基に算出しており、医療機器で36億円、情報システムで16億円、合わせて52億円を予定しています。全体240億円の中での52億円は妥当な数値であると思っています。開院1年前の契約に向けて、集中的に購入するのか、少しずつ購入するのか、今後、どのように整備や購入をしていくかが重要となってきます。</p>
	<p>(石黒会長)</p> <p>集中的に購入した場合、故障する時期も集中する可能性がありますので、使用できるもの、移動できるものは利用させていただきたいと思います。この件について、ご了承いただいということでしょうか。</p> <p>それでは、2番目の議題にうつらせていただきます。「半田市立半田病院あり方検討委員会答申(案)について、事務局お願いします。</p>
	<p>(事務局鳥居)</p> <p>委員の皆様には会議資料として事前にご送付させていただいておりますが、最終確認の場となりますのでよろしくお願いたします。</p>

構成につきまして、「記」以下4つの視点からまとめさせていただいています。1番目の項目につきましては、当委員会の第1回目から議論の根底にありました、公立病院、市立病院としてのあり方、立ち位置の視点からまとめた内容となっています。2番目の項目につきましては、最も慎重にご審議いただいた、建設候補地の選定について結論を導くにあたっての視点についてまとめてあります。3点目、4点目の項目は、先ほどもご意見をいただきました、当委員会としての附帯意見としてご提示いただいた内容です。3番目は災害への対応、4番目はバスなどの利便性の向上の視点からまとめさせていただいています。簡単ですが説明は以上とさせていただきますのでよろしくお願いいたします。

(石黒会長)

先ほどご審議いただきました内容を基に4項目についてまとめさせていただきます。よろしいでしょうか。

(花井会長)

建設期間ですが、およそどのくらいの期間を想定されていますか。

(事務局鳥居)

何年というお約束がこの場でできるものではないですが、43ページ、44ページの建設候補地の比較表の中に、⑨の項目として最短の年度を提示していますので、順調に進めば記載の年度には可能であると考えています。

(花井委員)

常滑市民病院を見学した際に、大枠の予算で業者を選定し、細かい部分は建築と並行して設計を詰めるという方式が多いとお聞きしましたが、そういう方式をとってもこの期間ですか。

(事務局鳥居)

今回の議論のなかでお示ししたスケジュールですと、28年度は基本計画まで、29年度、30年度で基本設計、実施設計、31年度、32年度で工事を実施するという前提で算出したスケジュールとなっています。設計に入る段階で設計と工事をどのように組み合わせを進めていくかについては、今後検討することとなりますので、場合によっては、建設期間が短くなる可能性もあります。

(石黒会長)

他によろしいでしょうか。この答申(案)について、これでまとめさせていただいてよろしいでしょうか。

よろしいようなのでこれでまとめさせていただきます。

以上ですが、事務局から何かありますか。

(大嶽管理課長)

それでは、2点ほどご説明をさせていただきます。まず、1点目ですが、当委員会の委員任期について、設置要綱第4条において任期は委員会が市長に報告書を提出するときまでとなっておりますので、本日の答申をもちまして終了とさせていただきますこととなります。委員の皆様におかれましては、大変お忙しいなか、新病院建設のためにさまざまな視点からご審議をいただき、新病院構想策定にあたりご尽力賜りましたことを、この場をお借りしまして改めてお礼申し上げます。ありがとうございます。次に2点目ですが、議事録の作成につきまして、本日の委員のご審議内容は、これまでと同様、

2 その他

事務局で議事要旨録の案を作成し、ご出席の皆様にご確認をいただいたうえで、半田病院のホームページに掲載させていただきますのでよろしくお願い致します。

(石黒会長)

ありがとうございました。本日の議題は以上です。委員の皆様には、忌憚のないご意見をいただき素晴らしい案がまとまったと思っています。今後、この答申が本当に実行され活かされるものとするためにご尽力いただきたいということと、委員の皆様におかれましても、これからも折にふれて確実に実行されているかを確認していただければと思いこの委員会を終わらせていただければと思います。ありがとうございました。

(三浦事務局長)

ありがとうございました。引き続きこの場において、会長より市長に答申をさせていただきますので、準備が整うまでしばらくお待ちください。

半田市立半田病院あり方検討委員会答申議事要旨録(案)

開催日時	平成28年4月26日(火)午後4時00分から午後4時10分
開催場所	半田市立半田病院 第4会議室
	<p>(三浦事務局長)</p> <p>お待たせいたしました。只今より、会長であります石黒名古屋大学附属病院長より半田市長へ答申書及び新病院構想をお渡しいただきたく思います。よろしくお願いいたします。</p> <p>【答申書を読み上げたのち市長へ答申書を手渡す。】</p> <p>(半田市長榊原純夫)</p> <p>ありがとうございました。石黒名古屋大学附属病院長始め委員の皆様には、長時間及び多くの日数ご審議いただきました。建設候補地の問題などいろいろご指摘をいただきました。これらを真摯に受け止め、半田市のみならず地域の住民の皆様への付託に応えるべく、この事業を進めてまいりたいと考えております。</p> <p>心より感謝を申し上げ、答申を受け止めさせていただきます。誠にありがとうございました。</p> <p>(三浦事務局長)</p> <p>これをもちまして、半田市立半田病院あり方検討委員会答申を終了させていただきます。長時間にわたりありがとうございました。</p>